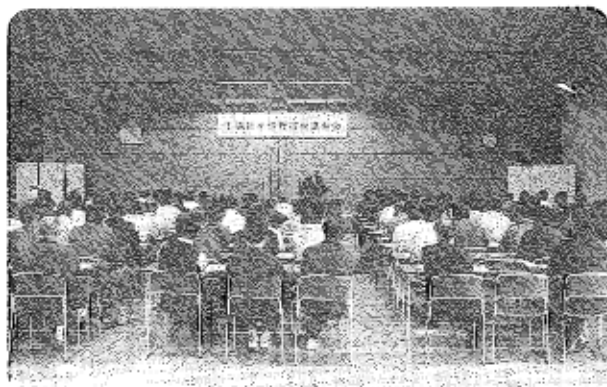


# TOPICS

## ★工場排水管理技術講習会

当センター及び県農政部流通園芸課主催による平成9年度工場排水管理技術講習会が、当センターに於いて平成10年2月17日に開催されました。

今回は(財)クリーン・ジャパン・センター参与の本多淳裕氏と当センターの新村孝善主任研究員が講演し、焼酎製造業、畜産食料品製造業、漬物製造業などの関係者140人余りが熱心に聴講しました(写真)。



本多氏は「食品産業の賢い排水対策」と題し、本来、食品工場はまず排水をできるだけ排出しないように努力すべきであり、そのためには、排水処理施設を拡大せずに、処理工程や操作で排水箇所を削減することの必要性を述べられました。

特に某食品メーカーの排水削減例である蒸気殺菌を兼ねた洗浄水の再利用や加圧水による洗浄は、以外と忘れていた排水削減法であり聴講者は驚きを見せておりました。

一方、新村主任研究員は「活性汚泥法の維持管理に必要な基礎知識とその指標」と題し、水質汚濁防止法の背景や有害物質の排水基準などを含め行政的側面からのアドバイス、また実際排水処理で行われている活性汚泥法の原理から運転・維持管理、トラブルの改善に至るまで、基礎的用語の説明を交えて、初心者にもわかりやすく説明しました。

## ★神野主任研究員が工学博士の学位を取得



平成10年3月25日付けで、素材開発部の神野好孝主任研究員が、鹿児島大学にて工学博士の学位を取得しました。

これは、県職員の自己研鑽のための職場外研修として鹿児島大学博士後期課程に社会

人入学したものです。

学位論文のテーマは、「長繊維強化セラミックス複合材料のプロセッシングと微細構造制御」で、ぜい性破壊を示す(もろく壊れやすい)セラミックス材料を信頼性の高い工業材料として使用できるようにするのが目的です。

セラミックス長繊維(Si-C-O長繊維など)をマトリックス(アルミナ、シラスガラスなどの基質)に複合し、発生する内部応力と界面でのエネルギー吸収機構を利用し、セラミックスの強靱化を図る指針を示しました。

## ★遠矢木材工業部長が技術士に合格



科学技術庁の技術士第二次試験が行われ、遠矢良太郎木材工業部長が林業部門で合格しました。

平成9年8月に筆記試験が、12月に口頭試験がありました。

この試験は、受験者の実際の技術上の知識及び体験を通じて、受験者が技術士として必要な高等の専門的応用能力を有しているか否かを判定することを主眼として行われますので、学理や知識だけではなく、経験によって裏打ちされた技術と応用能力も必要とされています。

遠矢木材工業部長の木材加工分野における長年の経験と試験研究の成果が合格に結びついたものといえます。

## ★中小断面集成材の研究成果普及講習会

3月12日に「中小断面集成材の製造システムの開発」事業の研究成果普及講習会が当センターの大会議室で開催されました。研究成果6テーマの口頭発表と成果物の展示が行われ、県内の木竹製品製造業や工務店等の関連業界から、60名を越す参加がありました。

口頭発表に先立ち、農林水産省森林総合研究所木材利用部特性科長西村勝美氏による、特別講演「国産スギの活用についてー地域完結型の木材加工利用システムー」が行われ、現場サイドの具体的な事例の話など、本研究の成果を地域へ導入する際、大変参考になる貴重な講演をいただきました。

研究成果の口頭発表は、「県産中日スギの強度性能と丸太のグレーディングマシンの開発」、「ラミナの最適木取り法の検討」、「スギラミ

ナの乾燥特性と乾燥歩留まり」、「連続式接着装置の開発」、「集成材の強度特性」、「集成材利用住宅の設計と構造計算」の各テーマで、熱心な聴講と質疑討論が行われました。



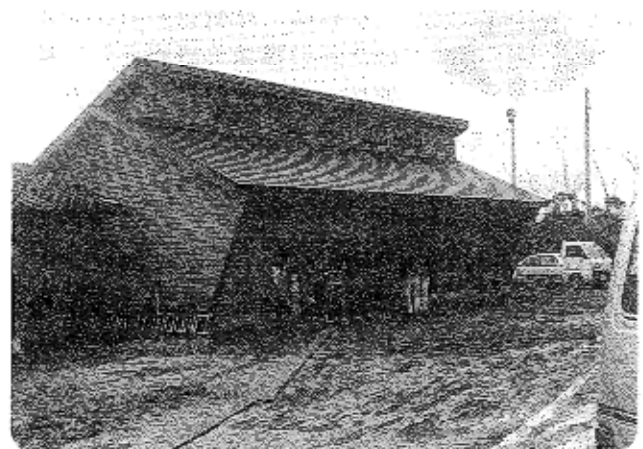
発表会風景

## ★中小断面集成材を利用した建築物第1号

工業技術センターが開発した、「中小断面集成材の製造システム」を活用して建てられた春牧交流館（屋久町）の落成式が、2月22日に行われました。

屋久町が今年度から取り組んでいる島内産材用途開発事業を受けて、当センターの木材工業部で屋久島産スギ造林木の丸太やラミナの強度を測定したところ、強度が高いことがわかりました。そこで、屋久町の委託を受けて、山佐木材株式会社（肝属郡高山町）が当センターで開発した「中小断面集成材の製造技術」を活用して、中小断面集成材を製造し、地元の春牧地区をはじめ、熊毛支庁屋久島駐在の皆様のご支援・協力のおかげで今回の落成の運びとなりました。まさに産学官の強い連携の成果と受け止められます。

春牧交流館は、中小断面集成材を利用した最初の成果物です。これを機会に中小断面集成材の成果の啓蒙・普及と今後は研究会を発足して製造・利用システムの地域への更なる利活用を図って参りたいと考えております。



春牧交流館